

第5回 航空燃料供給不足への対応に向けた官民タスクフォース 議事要旨

日時：令和7年3月19日（水）16:30～17:40

場所：経済産業省別館 11 階 1111 会議室

議題：

- （１）事務局からの説明（航空燃料供給不足に対する行動計画のフォローアップ）
- （２）意見交換

事務局からの説明後、構成員からの主な発言は以下のとおり。

- 安定的に航空燃料を供給いただいている一方で、給油作業員不足に直面している。需要が盛り上がっている中、航空燃料の事由により就航できないことは避けたい。処遇の面では、従業員休憩室を改善させていただいたが、引き続き考えてやっていく。
- 需要に応じていくため、まずは給油作業員の採用活動を一生懸命やっているが、育成には1年から1年半程度の訓練期間を要することから、効果が出るまでには一定のタイムラグが生じることを理解いただきたい。
- 訪日客 2030 年 6000 万人に向け、今後の需要見込みを示していただけると今後の給油体制構築及び空港のタンクの容量拡大等の改善を検討する上でありがたい。
- 中長期の供給力確保の取組として、油槽所等の既存タンクの転用などに対する補助の措置について記載があるが、空港のタンク容量確保についても支援をお願いしたい。特に、LCC や貨物便については運航の継続性が不透明で、融資による事業実施はリスクがあるため、補助金や交付金の活用が望ましい。航空燃料の備蓄がどれだけできるかはコスト面にも影響する。また、人材確保にあたっては処遇改善が重要であり、コスト増について、関係者のご理解をいただきたい。
- 短期の取組である航空燃料需要量に関する情報収集・整理について、実効性の観点から、情報粒度をより高めていく取組をお願いしたい。給油作業員の確保に向け、仕事の魅力を示していくなど、中長期的な課題に対して、具体的にどういった解決策、支援策を打ち出すのかということを航空局主導で進めていただけるとありがたい。
- 海運関係では、安定輸送のための船員の労務負担軽減策等について議論を重ねており、業界としても本年度公表予定のガイドラインの事業者への周知をしっかりと進めていきたい。また、今後の航空燃料の輸送需要の増加に対応するためには船舶の稼働率を上げていくなど息の長い取組が必要であり、政府からの安定的な財政支援もいただけるとありがたい。
- 輸入やサプライチェーンの強化はされた一方、コストが上昇傾向にある。エンドユーザーである航空会社だけでなく、全体の関係者で応分の負担となることが必要であると考えている。給油作業員不足に関して、本邦航空会社についても、最終的には運航できているが、調整に時間を要したケースがあったと聞いている。給油作業員、グラハンだけでなく整備士といったあらゆる職種において担い手不足が生じており、抜本的な対策を考える時期にあるのではないかと。
- 様々な関係者がいる中、当然リードタイムもあり、それぞれ予見可能性がないと投資しづらいことは理解。一定の仮定を置きながら、人材やインフラといった体制を官民連携して整えていきたい。

以 上